

～出エジプト記を読んで感じること～ (18) 十戒と法



ユル・プリンナー

私は子どもの時、ハリウッド映画「十戒」を驚きながら見た記憶があります。様々な奇跡の場面はとても面白くて魔法のようでした。聖書の奇跡物語は、私にとっては、信仰のたとえ話と思えるので、映像にするとどうしても無理があります。一方、ファラオを演じた ユル・プリンナーの台詞 **So Let It Be Written, So Let It Be Done.** (かく記し、かく行え) が何度も耳に残りました。古代エジプトには文書に残っている法典はなく、神の子であるファラオの言葉が絶対であり、法であったのだそうです。



Ur-Nammu 王、統治権授与

円筒印章, ca. 2100 BC

現存する世界最古の法典は、メソポタミアで発見された粘土版にシュメール語で記された 2100-2050 BC 頃の**ウル・ナムム法典**とされています。損害賠償に重点が置かれていて、殺人・窃盗・傷害・姦淫・離婚・農地の荒廃などについての刑罰が規定されており、特に、殺人・強盗・強姦・姦通は極刑に値する罪と見なされたそうです。



楔形文字 ルーブル蔵

次に古い**ハンムラビ法典**は、紀元前 1792 年から 1750 年にバビロニアを統治したハンムラビ王が発布した法典で、楔形文字で記されています。古代バビロニアは多民族国家であり、当時の世界で最も進んだ文明国家であり、多様な人種が混在する社会を維持するにあたって司法制度は必要不可欠のものでした。何が犯罪行為であるかを明らかにして、「目には目を、歯には歯を」という語で表されるような**同害報復** (どうがいほうふく) による刑罰をあたえるものでした。

「あとがきに、強者が弱者を虐げないように、正義が孤児と寡婦とに授けられるようにとの文言がある。社会正義を守り弱者救済するのが法の原点であることを世界で 2 番目に古い法典が語っていることは現代においても注目される」とあります。

日本人が持つ聖徳太子による **17 条憲法**によれば、まず「一に曰(い)わく、和を以(も)って貴(とうと)しとなし、忤(さから)うこと無きを宗(むね)とせよ。二に曰わく、篤(あつ)く三宝(さんぼう)を敬え。三に曰わく、詔(みこと)のり)を承(う)けては必ず謹(つつし)め」等々あります。自己主張、人権主張よりも、集団生活の和合、仏教の教え、天皇の勅命に、従順に従うようにとの日本的な性格が出ています。

共同体となったイスラエルに、モーセがシナイ山で授けられた**十戒**は、第一戒「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」が示すように、神と人との関係を通して人のあり方を示す、神の側からの宣言です。まず、神との関わりをどのように持つべきかが、定められています。信仰者にとって最も大切ですが、特異な法でしょう。人と人の関係を定める法としては第五戒「あなたの父母を敬え」から始まり、殺人、姦淫、盗み、偽証、強欲が禁止されていて、非常に簡素な法です。その後、細則、罰則が定められ、律法としてイスラエル人を束縛していきました。

時代の制約はありましたがすべての人間が安心して生存していくため、法が求められてきました。現在、日本国憲法は、主権在民、基本的人権、平和主義が柱です。特に戦争放棄の 9 条は世界から注目されていて、画期的な「平和的生存権」を述べています。大切にしたいです。